

第22回 卒業証書授与式 学校長式辞

春の兆しを感じられるこの良き日に、来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、木更津総合高等学校第22回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

そして卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の卒業式が、皆さんが制服を着て本校に登校する最後の日です。3年間を振り返って、木更津総合高校での生活はどうでしたか？コロナ禍に見舞われ、思い残すところがたくさんあったであろう中学校生活から一転して、皆さんが本校に入学した1年生の時から、やっと本来の学校生活が戻ってきました。まずは、3年ぶりに、全校生徒一斉にバス54台でディズニーリゾートに向かうバス旅行が復活しました。そして体育祭と文化祭という2大行事は、どちらも本来の形である2日間フルバージョンで実施されました。特に体育祭における、皆さんの団結力は素晴らしかったです。1年生の時は、木更津総合高校史上初の1年生赤組の優勝、そして3年生の時は、これまた木更津総合高校史上初の3年生紫組と緑組の同点優勝など、奇跡ともいえる快挙でした。また、2年生の時の修学旅行が実施できたことは、本当に良かったと思います。中学校3年生の時には、本来とは違う形での修学旅行だったと思いますが、その分、高校での4泊5日の修学旅行は一生の思い出となったことでしょう。様々な地域から集まった個性豊かな仲間達との寝食を共にした交流という、木更津総合高校の醍醐味を味わってもらえて、私も心の底から嬉しく思いました。

さて、明日から皆さんは人生の新たなステージへ進んでいきます。3年前から日本の成人年齢は18歳になりました。つまり就職するだけでなく、進学をする人も含めて、高校を卒業する皆さん全員が、「大人」としてこれからの人生を生きることになります。それはつまり、自分の判断でできることが圧倒的に増える代わりに、その判断が全て自分の責任になるということです。しかしながら、皆さんが出ていく社会はこれからどうなっていくのでしょうか？日本の少子高齢化は深刻です。皆さんが生まれた今から18年前には、日本では約109万人の子供が誕生しました。それと比較して、昨年日本で生まれた子供の数は約72万人です。考えるまでもなく、確実に社会は変容していきます。世界中に目を向ければ、ロシアとウクライナの戦争、ハマスとイスラエルの抗争など、終着点が見えてきません。加えてアメリカ第一主義を掲げるアメリカや中国の動きも相まって、数年後の国際情勢がどのようなになっているのか、そして、その中での日本の立ち位置はどのようなになっているのか想像が付きません。

このような先の見えない未来の中で、皆さんに必要とされる力を示したいと思います。それは、目の前で起ったことをしっかり受け止め、それに対して自分が何をできるのか考えて行動に移すことができる力です。まわりが自分に対して何かしてくれることを待つだけではいけません。そして、社会の変化を受け止め、それを乗り越えていくために自分自身が柔軟に変化していく力も必要です。「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き残るのでもない、唯一生き残るものは変化できるものである」。

しかしながら、変化していく世の中であっても、社会生活を送る上で、最も普遍的で大切なものがあります。それは良い人間性です。人は一人では生きられません。人と人が支え合って生きていく中で、社会で愛され必要とされる人間とは、良い人間性を持った人です。至真殿の正面入り口の卒業式の看板が立ててある柱に、「人柄・体力・知識」と書かれていることは知っていましたか？1に人柄、

2 に体力、3 に知識の順番です。どんなに知識や技術を持っていたとしても、どんなに強靱な体力を持っていたとしても、良い人間性が伴わなければそれを社会で活かすことはできません。皆さんは千葉県一と言っても過言ではない、個性豊かで様々な地域から集まったたくさんの仲間たちと、切磋琢磨しながら3年間で過ごしてきました。色々な考え方や価値観を持った仲間たちと過ごすことで、それをお互いに受け入れながら一つのものを協力して作り上げていく人間力を身に付けたはずです。皆さんが3年間で培った人間力と真心を如何なく発揮し、社会で愛され必要とされる、そして新時代を切り開いていく人財となることを期待しています。

もちろん、これからの皆さんの人生は、全てが楽しく平坦な道ではないでしょう。高校生という身分に守られた学校での生活とは比較にならないほど、これから皆さんが通る道には多くの困難が待ち受けていると思います。しかし、我々木更津総合高校の教職員一同、皆さんが卒業した後も、一生皆さんを応援しています。嬉しいことがあった時、辛いことがあった時、いつでも母校を訪れてください。

さてお別れの時間が迫ってきました。終わりにあたり保護者の方々、ご来賓の方々には、これまでの本校に対するご理解ご協力にあらためて感謝申し上げます。そして卒業生の皆さん。くれぐれも健康に留意し、自らの夢に向かって精進し、その努力が花を咲かせ実を結ぶことを心から念願して、私の式辞といたします。

令和7年3月1日

木更津総合高等学校
学校長 真板竜太郎